『歌いきれないほどのラブソング（聞く方も無理）』

作　阿野　一人

登場人物

ジョー　（２０）ヨーコのことが好き
ヨーコ　（２０）アッキーの元・恋人
アッキー（２９）シンガーソングライター　レパートリーは五千万曲
マサ（３３）　ライブバー店長
スカウト（？）男女問わず　名門レーベルの新人発掘担当
トミコ（３０）アッキーの元・恋人２号
ミッチー（２６）声が小さい常識人

※ミッチーのカッコ内のセリフは全て口パクで声を出さない。身振りで喋っているとわかるように
※スカウトを女性が演じるときは、語尾を言いやすいように直してＯＫ
※キス・ハグなどは役者のＮＧに応じて工夫してＯＫ。
（「キスシーン」「１８禁」などと書いたプラカードでミッチーあたりが隠すことを推奨）
※ジョー、ヨーコ以外の年齢設定は増減してＯＫ。ただし、二人より必ず年上であること。
※「遮る」という指示があるときは、前のセリフの「/」記号を目安とする

オシャレなライブバー。
マサとミッチーが楽しそうに話している。
おしゃれな音楽が結構な音量でかかっている。どこかでＤＪがかけてる。
ヨーコが一人、音楽に聞き入っている
ジョーが二人分のオシャレな飲み物を持って現れる

ジョー　（客席に）皆さんは、思い出の曲はありますか？　耳にするたびに、心がきゅっとなるような。一人の時間に、ふと口ずさんでしまうような。これは、僕の、恋の物語です。僕は十代に別れを告げて、少し大人になった気分になって、一生懸命背伸びをしていました。慣れない夜の街。お酒の味。大音量でかかる音楽。ＤＪ．ミラーボール。大好きなあの子。僕はこの日、大好きなあの子に思いを伝えようと決心して、この店に誘いました。彼女は、僕なんかよりもずっとずっと大人だったなんて、考えもしないで。

ジョーがヨーコに飲み物を持っていく

ジョー　おまたせー
ヨーコ　ありがとー。かんぱーい！

ジョーがちょっと口をつけてアルコールの強さにビビる。ヨーコは普通に飲む。

ヨーコ　いい店だね
ジョー　え？　（大音量で聞こえない）
ヨーコ　いい店じゃん！
ジョー　ああ！
ヨーコ　やるーう！

ヨーコ、再び音楽に没頭する。ジョー、飲み物をグッと飲み干し、意を決する。

ジョー　ヨーコちゃん！　僕、ヨーコちゃんのことが好きだ！
ヨーコ　あはは！　そうだね！
ジョー　そうだね？

ジョー、意味が分からずキョトンとする。ヨーコ、それに気づく

ヨーコ　ごめん、よく聞こえなかった！
ジョー　え、あ、そうだよね……
ヨーコ　え？　なに？

ヨーコ、ジョーの口元に耳を寄せる。ジョーは思わずドギマギして離れてしまう。

ヨーコ　？
ジョー　いやー！　音、でかいね！
ヨーコ　普通じゃない？
ジョー　え？

ジョー、聞き取れずついヨーコに耳を向ける。
ヨーコがジョーの肩に手を置き、耳元に口を近づける。
ジョー、思わず離れるが、意を決して耳をヨーコに近づける。
ヨーコとの身体的接近に喜びと興奮を隠せないジョー。

ヨーコ　普通じゃない！？（耳元で大声で）
ジョー　うわっ！

ジョー、耳にダメージを負う。ヨーコは意に介さない。
ジョー、頑張って笑顔をつくる。二人、笑いあう。
ヨーコ、再び音楽に没頭しだす。ジョー、意を決して話しかける。

ジョー　ヨーコちゃん！
ヨーコ　？

ヨーコ、ジョーの方を向く。ジョー、次の言葉が出てこない。
マサとミッチーがヨーコに気づく。
ジョーが告白しようとした瞬間、マサがヨーコに声をかける

ジョー　ヨーコちゃん、僕、／ヨーコちゃんのことが好きだ
マサ　（遮って）ヨーコじゃん！　なにしてんの！
ジョー　なんだよもう

機を逸して天を仰ぐジョー

ヨーコ　あー！　マサ兄！

ヨーコ、マサとハグする。嫉妬と羨望でドギマギするジョー

ジョー　えー！　なに！？　えー！？

ヨーコはつづいてミッチーともハグする

ジョー　え！　こっちも！？
ヨーコ　マサ兄なんでいるの？
マサ　だって俺、店長だもん！
ヨーコ　えー！　じゃあおごってよー！
ジョー　え、チャラい（独り言）……
マサ　いーよいーよ。あ、こいつミッチー。（ヨーコを指して）ヨーコ。
ヨーコ　はじめましてー
ジョー　はじめましてであの距離感！？
ミッチー　（ヨーコちゃん、よろしくね。マサお前、子供に手を出すなよ）
ジョー　え、なんて？
マサ　違えよバーカ！（ミッチーが口パクで話し終えたら）
ジョー　聞こえたの！？
マサ　お？（ジョーに気づき）
ジョー　あ、どうもはじめまして（委縮しつつ）
マサ　お？　お？　（ヨーコとジョーが付き合ってるのか的なジェスチャーで）
ヨーコ　あーもう！　大学の友達で、北条君！
ジョー　あ、あのいつもおせわに……

マサ　北条君！　じゃあジョーだな！（ジョーの肩や背中をバンバン叩いて）
ジョー　痛い痛い痛い
マサ　マサです！　よろしく！

マサ、握手を求める。ちょっと嬉しそうにジョーが応じる。
マサは普通に握手してるが、ジョーには握力が強すぎて手が痛い。

マサ　よし！　じゃあなんかおごったるわ！
ヨーコ　やったー！

マサ、ヨーコの肩に手を回し、二人はける。
ジョーは手が痛い。マサとヨーコが近いのも気になる。恨めしそうに二人を見送る。

ミッチー　（アイツほんと距離感バグってるよな）
ジョー　え、なんて？
ミッチー　（まあ、あんなかわいい子がマサに落とされるわけないか）
ジョー　いやあの、聞こえないっす！
ミッチー　（いいなー、大学生。勉強楽しい？　おれ大学いってないからなー）
ジョー　だから聞こえないって！　てかそっちも聞こえてないでしょ！？

マサがオシャレな飲み物を2つ持って戻ってくる。ひとつをジョーに渡す

マサ　お待たせい！　ほれ！
ジョー　あ、いただきます
マサ　乾杯！
ミッチー　（あれ、俺の分は？）
マサ　お前にはおごらねえよ
ジョー　なんで聞こえるの？
マサ　ジョー君さ
ジョー　はい
マサ　やめといた方がいいよ。あの女は。
ジョー　え？　いや、あの僕は別に
マサ　バレバレだって。なあ。
ミッチー　（そうだね）
マサ　ヨーコにも絶対バレてるよ
ジョー　え……
マサ　あいつはさ、お前の気持ちを知ってて、今日ここに誘う。そういう女なんだよ
ジョー　え、あの、今日、誘ったのは僕で

マサ　え？　なに聞こえない
ジョー　今日！　誘ったのは僕です！
マサ　え、そうなの？　（マサ、思案する）
ジョー　なんで僕の声は聞こえないんだよ（独り言）…
マサ　じゃあ……知らねえのかな。今日のこと。

アッキーがライブバーのステージに上がる。ヨーコが凝った飲み物（もしくは誰かから拝借したパーティグッズ）を持って戻ってくる。
ヨーコとアッキー、お互いに気づき固まる。

マサ　知らなかったみたいだな……
ジョー　（客席に）そう。僕は何も知りませんでした。こんな音楽があるってことも、それを愛する人たちがいるってことも、彼女には僕の知らない過去があることも、恋とはどういうものなのかも。

ヨーコ、動揺を隠しながらマサたちの近くまで戻る。
拍手の中、アッキーのライブが始まる

アッキー　〜憧れるのをやめましょう♪（バラード風に）※任意の流行語をいれましょう

一同拍手。

ジョー　大谷選手のやつだ……　※わかりやすくつっこんであげましょう
アッキー　〜ドントウォーリー　アイム　ウェアリング　パンツ♪（バラード風に）※任意の流行語をいれましょう
アッキー　えー、今日は、俺のために集まってくれてありがとう。

一同拍手。

ジョー　裸に見える人のやつだ……　※わかりやすくつっこんであげましょう
アッキー　えーと、なに喋ろう。
マサ　泣くなよ！
アッキー　泣かねえよ！　えー、そう。みんなも知ってる通り、今日が、俺の、最後の、ライブになります。
ヨーコ　え……？

アッキー　やべえ、もう無理だ（涙をこらえて）
ミッチー　（がんばれー！）
アッキー　ありがとうミッチー
ジョー　この距離でもきこえるの……？
アッキー　まじで、今までやって来れたのは、みんなの大きな愛のおかげ。俺、歌うことしかできねえからさ。沢山の人に迷惑かけて、大事な人を傷つけて……（ヨーコを見て）取り返しのつかない間違いもして……

ヨーコ、立ち去ろうとする。マサが腕を掴む

マサ　聞いてやってくれよ……！

ヨーコ、立ち止まる

アッキー　最後の曲です！　最後は何を歌おうか迷ったけど、やっぱ、これしかない。俺が、一番、大切な人のためにつくった歌です。

ヨーコ、アッキーの方を向く

アッキー　聞いてください！　〜君のことを〜愛してる〜♪（ファミマの入店音のメロディーで）
ジョー　コンビニの音だーーーーー！

マサ、ミッチー、熱い拍手をする。ヨーコは俯き、肩を震わせている。

アッキー　ありがとう！　みんなありがとう！

マサ&ミッチーがアッキーに歩み寄りハグする。

ジョー　いやいやいや！　コンビニ！　コンビニの音！　みんなおかしいって。変だって！

全員がスローモーションになる。ヨーコがスローモーションでアッキーに駆け寄る。

ジョー　垣間見えた彼女の過去。僕の常識を覆す音楽。動揺し、ただ喚き散らすだけの僕を置き去りにして、彼女は……！

スローモーションが終わり、ヨーコがアッキーに抱き着く。二人は熱い抱擁を交わす

ジョー　なんでー！？

アッキー　ヨーコ！　来てくれるなんて思ってなかった！
ヨーコ　私も！　いるなんて知らなかった！
アッキー　音楽の神様がくれた奇跡だ！（二人は抱擁を続ける）
ジョー　神様、怒ってると思うよ！
マサ　うるせえなお前は！
ジョー　だってパクリじゃん！
マサ　そりゃ似てる曲はあるよ！
ジョー　いや似てるとかいうレベルじゃ/ないでしょう
マサ　（遮って）アッキーは五千万曲つくってるから
ジョー　五千万！？
マサ　そんだけありゃ似るよ！
ジョー　いや絶対ウソでしょ五千万曲とか
マサ　全部名曲だぞ
ジョー　全部聞いたの！？
マサ　もちろん
ジョー　いやいや何時間かかるのよ！
マサ　だから一曲が短いだろ
ジョー　た、たしかに

ジョー、納得させられるが、やっぱりおかしいと思って計算しだす

ジョー　一曲十秒だとして……（空中で筆算しはじめ、すぐ諦めスマホで計算しだす）
ヨーコ　ね、音楽やめるなんてウソでしょ？　また、コンビニの歌、歌ってくれるんでしょ？
ジョー　あ、コンビニって言った！
アッキー　できないよ。俺、もう……決めたんだ。
ヨーコ　どうしても
アッキー　ああ。夢の旅はもう終わったんだ。もう、現実を生きていかなくちゃ
ヨーコ　……今さら？　じゃあなんであの時、私を選んでくれなかったの？
アッキー　……

ジョー、計算し終わる

ジョー　15年かかるんですけど！
マサ　うわびっくりした！　なんの話！？
ジョー　五千万曲！　不眠不休で聞いても15年！
マサ　今それいいだろ！
アッキー　（ヨーコに）ごめん……
ヨーコ　あなたが、夢があるっていうから、だから私……じゃあ私は、なんのために

アッキー　（強引にヨーコを抱き寄せ、キス）
ジョー　えーーーーー！？
アッキー　やり直そう！　俺に必要なのは音楽じゃない。君だ！　君なんだ！
ヨーコ　アッキー……

スカウトが入ってくる

スカウト　素晴らしかったー！！
ジョー　だれーーー！？

スカウト、アッキーをハグする。

スカウト　感動した！　君は音楽やめちゃダメだ！
マサ　あなたは？
スカウト　あ、音楽レーベル・オフィスセプテンバーの新田です。
マサ　セプテンバーって、あのセプテンバー！？
スカウト　はい。さっきの曲、うちで出しましょう！
ジョー　ダメだよ！　パクリ！
スカウト　不思議だ。初めて聞いたはずなのに、何度も聞いたことがあるような。
ジョー　何度も聞いてる！
スカウト　他にも曲、あるんですか？
マサ　あるよ！　五千万曲！
スカウト　すごい！　全部聞かせてもらっていいですか？
ジョー　15年かかるよ
アッキー　申し訳ないですけど、僕はもう音楽は/辞めるって決めたんで

トミコが入ってくる

トミコ　やりなさいよ！（遮って）
ジョー　だれーーー！？
アッキー　トミー！　どうしてここに！？
トミコ　店の前を通ったら、あのメロディが聞こえてきて……3年ぶりに、あのメロディが
ジョー　3年コンビニ行ってないの！？
トミコ　あなたは、歌うべきよ。アッキー。
アッキー　無理だよ。俺に必要なのは音楽じゃない。愛なんだ！
トミコ　音楽の神様に愛されてるじゃない！
ジョー　……そうかなあ？
アッキー　……音楽なんかに愛されてもダメなんだ！

トミコ　じゃあ……私が愛してあげる！　（トミコ、アッキーの襟首をつかんでキスをする）
ジョー　えーーーー！
アッキー　トミコ……（スカウトに向き直り）俺、やります！
ジョー　えーーーー！？

ミッチー、アッキーに掴みかかる

ミッチー　いい加減にしろ！　この子（ヨーコ）の気持ちはどうなるんだ（怒鳴ってるが声はウィスパー）
ジョー　あ、聞こえた！　聞こえた！
ミッチー　音楽はパクリ、女は裏切り、お前最低だぞ！！（怒鳴ってるが声はウィスパー）
ジョー　まともな人、いたー！！
アッキー　うるせえよ！！
ジョー　絶対うるさくはない！
アッキー　俺には音楽しかないんだ！

アッキー、ミッチーを殴り飛ばす。ミッチーそのまま吹き飛んではける

ジョー　弱―い！　し、さっきと言ってること違う。
アッキー　おれ、やります。おれの歌声を、世界中に届けたいと思います。
スカウト　やりましょう！　あ、他の４９９９万９９９９曲は？
マサ　あ、裏に音源ありますんで！

マサが案内し、マサ、スカウト、アッキー、トミコがはける

ジョー　……
ヨーコ　また、捨てられちゃった……
ジョー　ヨーコちゃん……
ヨーコ　どうしよう。あのメロディが聞こえるたびに、私きっと泣いちゃう
ジョー　それは……生活しにくいね
ヨーコ　……
ジョー　なんて言ったらいいかわからないけど
ヨーコ　？
ジョー　あんなやつ、ヨーコちゃんにはもったいないよ！　変だもん！　歌も変だし！　ていうかパクリだし！　あの女だってなんか変だし！
ヨーコ　（自嘲気味に笑って）そうかな
ジョー　そうだよ
ヨーコ　……ありがとう

ジョー　……ヨーコちゃん、俺、ヨーコちゃんのことが/好きだ
ヨーコ　ごめんむり！（遮って）
ジョー　……最後まで言わせてよ
ヨーコ　……ごめんね。……ひどい女だよね。
ジョー　そんな……
ヨーコ　北条君いいやつだからさ、私なんか嫌いになって、もっと素敵な女の子と恋をした方がいいよ。その方が、絶対幸せになれるよ
ジョー　そんなの無理だよ……だって好きになっちゃったんだから
ヨーコ　……そっか
ジョー　……
ヨーコ　私も、もっと素敵な男の人を、好きになれたら、よかったな
ジョー　……

ヨーコ、去る
ジョー、佇む。
ミッチーが現れる（ボロボロになってるとよい）

ミッチー　（恋って、ままならないものだよな）
ジョー　いや全然きこえないっす

ミッチー、ジョーの肩を叩き、去る

ジョー　（客席に）これが、僕の、カッコ悪い恋の物語です。人は何故、恋をするのでしょう。人は何故、恋をしてしまうのでしょう。誰かの忠告に、耳を傾けることもなく、ただ全力で、傷つくことも恐れずに。だけど、今もくすぶり続けるこの胸の痛みは、少しずつ、甘く、やわらかくほどけていって、時がたつにつれ、温かさすら覚えるようで。まるで、初めて飲んだウイスキーのようで。もしかしたら、人は誰かの……自分の、愚かさを赦せるようになるために、恋をするのかもしれません。

ジョー、去る。ファミマの入店音をハミングしながら。

おしまい